

特別講演  
顕微鏡歯科とMID  
Magnification-Illumination-Documentation



東京歯科大学教授、本学会前会長  
中川寛一

歯科治療に用いられる顕微鏡は、構造的に双眼実体顕微鏡である。対物レンズで集めた情報を接眼レンズで拡大することによって実像を得る。一般の生物顕微鏡と手術用実体顕微鏡が異なる点は、前者で光を標本に透過させて観察するのに対し、後者ではいわゆる落下光で対象を照明しその表面構造を観察することである。

手術用顕微鏡を覗いて驚くことは、安定した高倍率と立体視と明るさである。顕微鏡の視野（観察視軸）が照明の光軸（照明軸）と同一線上にあり、さらに通常の歯科用无影灯に比較して、格段に強力な照明装置を具備していることによってい。また治療上有効な顕微鏡の大きな特徴としてさらに患者へのドキュメンテーションの提示があげられる。講演では顕微鏡治療の3要素であるこれらMIDに焦点をあて小括を試みたい。

。